

解答

- 問一 クリヤトチの木の枝 問二 木を間引きすること 問三 エ
問四 ー 減らす 2 道路 3 導入 問五 A オ B ア C イ
問六 人間の役に立つ木材 問七 何か問題がくという思想
問八 ー 生産性 2 天然林を伐採し、人工林をつくった。 問九 ウ
問十 その地域の自然条件や風土や、暮らしの歴史に適した森であり、人間の林業地でもあり、動物たちのものでもある森。

二

- 問一 エ 問二 能 問三 イ 問四 A イ B ア C イ D ア
問五 エ 問六 人前で恥をかくことはさげたいから。 問七 自分の考え 問八 エ・オ
問九 ウ 問十 ア 問十一 「聴衆は」質問者ではなく、質問内容に関心があるだけなのだ
問十二 失敗 問十三 質問すれば
問十四 自分の理想に向かってどん欲になり、自分に自信を持つことができ、失敗を恐れずに、何事にも前向きな生き方ができるようになる。

三

- 問一 イ 問二 おはよう 問三 相手の親切くいるな思い 問四 「人の心を」あたたかくする
問五 まゆ 問六 感謝を伝えるときに、すみませんと言ってしまふこと。 問七 漢和辞典
問八 イ 問九 言葉 問十 相手をたたえる 問十一 エ
問十二 言葉にして思いを伝えたい

四

- 1 率先 2 密閉 3 護衛 4 逆境

解説

一 出典は、内山節『森にかよう道』。

問一 傍線部を含む形式段落に、説明があります。「材料」を問われていることに注意しましょう。

問二 「文章の後半にある具体例」と、問題文が解答をリードしてくれていることに気づくことが大切です。

問三 「森は自然的存在であるとともに、③」な存在なのだと思う。なぜなら人間の森へのかかわり方によって、森は変貌をとげていくからである」という二文から、③は自然と相対するものであり、変貌するものであると分かります。人間の営みが強く反映する場として、森をとらえています。

問四 空欄を含む形式段落は「たとえば」という接続語から始まっていますので、前の形式段落で述べられたことの具体例が述べられるはずです。

問五 前後の関係をしっかりとつかみましよう。特に（B）は、筆者の主張の入り口となるところです。

問六 何にとつて「有用」（＝役に立つ）なのかを考えましよう。

問七 「工場と同じようにく生産性の高い森を開発していこう」という建築の思想」が一つ前の段落に書かれていますが、ここは「具体例」を述べている段落なので、さらに一つ前の段落から同じ内容を一般化した表現を探します。

問八 「このような考え方」とあるので、傍線部の前から探します。「用材の生産性」と答えたいところですが、解答欄のサイズも学校側が求める解答への手がかりとして重要です。

問九 「針葉樹の人工林は木材の生産以外に利用価値のない森になってしまふ」とあることから、「市場経済の上では価値は『高くても』く暮らしのなかの価値は、『逆に低下してしまふ』」となります。

問十 「生産性」ばかりを求めていた頃の方法とは反対の、荒山さんの方法で、どのような森ができあがったのでしょうか。「二つ三つ『クマの座蒲団』がかけられている」としめくくられていますので、動物たちの森でもある点も書いているとよいでしょう。

二 出典は、今北純一『自分力を高める』。

問一 「ふんべつ」と読めば「道理をよくわきまえていること。また、物事の善悪・損得などをよく考えること」という意味、「ぶんべつ」と読めば「種類によって分けること。区別すること」という意味です。ここでは前者です。

問二 「能ある鷹は爪を隠す」は、「実力のある者はそれを表面に現さない」という意味の慣用句です。

問三 欧米の考え方に「合っていないもの」を選びます。欧米では、「阿吽の呼吸」「以心伝心」という考え方は通用し

ません。

問四 空欄A・Bを含む形式段落は「たとえば」から始まっていますので、その前の段落までで述べられていることの具体例が述べられるはずです。AとB、CとDがそれぞれ対の関係であることを意識しましょう。

問五「阿吽の呼吸」と並立の関係であり、「あえて口に出して言わなくても相手が理解してくれる」という意味の四字熟語を選びます。「意気投合」は、互いの気持ちがぴったりと合うこと。「不言実行」は、文句や理屈を言わずに黙ってなすべきことを実行すること。「一心同体」は、複数の人が同じ心になること。

問六「しりごみ」とは「怖がってびくびくする」という意味です。怖がって発言しない理由は、前の文にあります。

問七 筆者は何のために、「国際会議などの席で、必ず一つは質問する」という課題を自分自身に与えたのでしょうか。「自分の考え」をきちんと発言できるようにしたいと思ったからです。

問八 単に「コミュニケーション」というと「人間が互いに意思や感情、思考を伝達し合うこと」という意味ですが、ここでは、筆者は「公の場で自分の意見を発言できるようにしたい」と考えています。高めたものとして「コミュニケーション力」「プレゼンテーション力」「交渉力」を並立の関係で述べていることに注目し、「積極的に相手に伝える、発信する」という内容のものを選びます。

問九「うなだれる」とは、「失望や悲しさ・恥ずかしさなどのために、力なく首を前に垂れる」という意味です。「公の席で、必ず一つは発言する」と意気込んでいた筆者ですが、はじめはなかなかうまくいきませんでした。

問十「意を決する」という慣用的表現で、「思いきって決心する。覚悟を決める」という意味です。

問十一 ある席で、挙手して指名されたのに、何も言えずに終わってしまった筆者は、笑われているだろうなと周囲の目を気にしますが、聴衆は、特に筆者のことを気にする様子もなく、次の質問者に意識を向けていました。「聴衆は、質問者ではなく質問内容そのものに関心があるのだ」ということに筆者は気づいたのです。

問十二 空欄Eの4行前に「それからは人前で失敗することを恐れなくなりました」、最後から2行めにも「次からは失敗が怖くなくなるので」とあります。「新しい何か」を手に入れるためには「失敗」は避けられない過程の一つだと筆者は考えています。

問十三 相手が「きちんと答えてくれる」ようにするためには、どうすればいいのでしょうか。また、空欄を含む文の次の文に、「つまり、その質問をする前に比べると、あなたは」とありますので、空欄に入る適切な語句は「質問すれば」だと分かります。

問十四「みなさんにも、できる範囲で、こうしたトレーニングを行なうことをお勧めします。たとえば、将来ついてみたい職業が」とありますので、「自分はこうなりたい」という理想を抱くことから始まり、失敗を恐れず前向きに取り組むことでどのような生き方ができるのかを考え、まとめましょう。

③ 出典は、高橋政巳・伊東ひとみ『漢字の気持ち』。

問一 傍線部は、ある程度の確信をもって判断や見通しを述べるときの用法です。アは「はじめに」、ウは「と」にあえず。ともかく。何はともあれ。

問二 発音上の便宜により、語中・語尾の音が他の音に変化することを「音便」といいます。「うつくしくございます」→「うつくしゅうございます」などもありますが、「あいさつの言葉」という条件がありますので、注意しましょう。

問三 指示語ですので、前を探します。「ありがとう」に込められた思いを過不足なくぬき出しましょう。

問四 文中の語を使わずに答える問題です。2行めに「人の心を明るく弾ませてくれます」とありますので、これを意味を違えずに、自分の言葉で言い換えます。

問五「眉（まゆ）をひそめる」は、「心配・不快などで、顔をしかめる」という意味の慣用句です。

問六 指示語ですので、前を探します。「これを『言葉の乱れ』と言ってしまえばそれまでですが」とありますので、前の形式段落から「言葉の誤用」にあたる内容をまとめます。

問七 漢字の語源（字源）を調べるには、「漢和辞典」を用います。

問八「目に見える物の形やようすを具体的にえがいた漢字」は、「象形文字」です。「上」は、「指事文字」（絵としては描きにくい一般的な事態を抽象的な約束や印であらわした漢字）です。

問九 前の文の、「矢を手から離せば、弓の緊張が解けてゆるみます」を、「（⑨）を発することによって心の緊張をゆるめる」と対応させて考えます。

問十「自分の心にある（⑩）気持ち」を言葉にしてお礼を述べれば『感謝』となり、詫びる気持ちを言葉にすれば『謝罪』となる」という文は対になっています。8行めの「相手の親切や厚意を身にしみて嬉しく思う気持ち、相手をたたえる気持ち、たとえようもない感謝の念」という部分が、大きな手がかりになります。

問十一「ありがとう」と言うべきところで「すみません」とつい言ってしまうことは「言葉遣いのマナー違反」と文章の前半で述べられていますが、筆者は「謝」の字源を根拠にして、「なるほど」と肯定しています。前の文に、『感謝』と『謝罪』は意外にかけ離れたものではない」とあります。

問十二 前の問題でも確認したように、『感謝』と『謝罪』は意外にかけ離れたものではない」とあります。「ありがとう」も「すみません」も、人のどういった思いから発せられるのでしょうか。